

九谷焼技術研修所に想う

研修所講師 陶芸家 林 秀行氏

九谷焼技術研修所発足当時より「造形演習」を担当し、30余年となる。

九谷焼は360余年の軌跡は日本陶芸に独自の表現領域を確立している、その伝統に新たな息吹をとの熱い想いで発足したと聞く。当研修所は先進的なカリキュラムで構成された、それは県内外で活躍する秀れた講師を招き、主として九谷焼に関わる高度な技と知を習得し、次代を担う人材育成をめざし作られている。九谷焼独自の表現方法のみに囚われることなく、より広い視野を育むためにと多様な表現者—陶芸表現者のみならず画家、染織家等々と同時に陶芸概論、工芸概論等々の専門家の講義など、技と知を伝え表現者として多角的な視点で伝統を考えようとするものなのでしょう。そこに集う研修生は、性別、年齢、職歴、学歴を異にすると云え陶表現への熱い想い、志のある人々が、素材に立ち向う真摯な姿勢は美しい。と共にそれらの人達の熱い想いに寄りそい支える指導員諸氏の姿も好ましく美しいものである。講師が担当する課題は云わば点であろう、指導員諸氏の知恵と工夫で面とされる指導法に敬意を覚えるのは私一人ではあるまい。

私の担当した「造形演習」は、知の先行や観念のからおどしに囚われることなく、手を動かす感じ、考えながら手を動かすことから生じる意外な形との出会い、発見の不思議な魅力と驚き、作るよろこびを体験してほしいとの想いで右往左往したものです。いつの時から研修生の皆様が象（かたち）を発見する一助になればと考えます。卒業生の皆様は、研修所や支援工房での人との出会いや様々な事象を手だてに感受性をより一層磨き新たな九谷焼創出の地平をめざし、活躍されている先輩諸氏と共に志を忘れず、新たな担い手として活躍されることなのでしょう。



研修生・職員オールキャストです



は、隣り合う色の選び方です。沢山の色紙を使い配色を試行錯誤するプリミティブな演習では、楽しみながら色彩感覚を養うように努めています。



そして、毎回作った作品について発表する事をお願いしています。作った本人が作品のことをよく理解しているのは当たり前ですが、そのまま展示するだけでは上手く伝わらないことが多いです。見る人に伝えることを念頭に置いて制作、展示することが作品制作にとってとても大切です。

さて、話は変わりますが、近年日本の素晴らしき伝統工芸を絶やすことのないように、後世へ伝承するための様々な活動が広まっています。工芸品の魅力、職人の技術力の高さを発信している企画展や雑誌の特集、ショップ、ウェブサイトも沢山見られるようになりました。そのおかげで、陶器、釉薬などさまざまな自然素材を使った魅惑的な造形は日本のみならず世界からも注目を集めており、皆さんにとって好機が訪れています。

しかし、グローバルレベルでの価値競争はますます激しくなり、お客さまの工芸への期待もどんどん高まっています。そして、その期待を超えるために大先輩から伝統を受け継ぎながら、今の時を表現する数々の挑戦を続けなければなりません。これからが皆さんの出番ですね。

奥義は基本にあり。そして、継続は力なり。それでは、健闘を祈ります！

「これからが皆さまの出番です！」

金沢美術工芸大学 デザイン科 教授 畷野 裕司氏

九谷焼技術研修所で色彩演習を2010年から担当しています。

研修生の皆様に、少しでも多くの選色・配色のコツを実感できるように、また、色を上手に活用し作品の表現を豊かにするヒントになるようにと思ひ指導しています。

複数の色を使う場合に最も気を付けると良いこと

「オープンキャンパス」開催のご案内

来年度のオープンキャンパス開催決定！！

日 時：平成29年8月6日（日）
10:00～16:00

内 容：研修生の授業内容などの紹介や、ロクロ・上絵付けの体験、上絵薪窯で焼成する体験・見学会、研修生等の作品展や卒業生によるロクロと上絵付けの実演等、盛り沢山です。

元気で活躍している卒業生・OB！

「植物を描く」

第24期生 柴田 有希さん

研修所を卒業し、山田義明先生の元へ弟子入りをして今年で10年です。弟子入りを志望したのは、伝統工芸展に出品なさっていた鉢に描かれていた生き生きとした野葡萄に衝撃を受けたからです。

そして、弟子入りして最初に「写生が全ての基本」と教わりました。それ以後、植物を描いた作品を制作してきましたが、写生が基本であるという想いに変わりはありません。

相手が自然なのですから当然のことですが、写生は時期を逃がさないことが大切です。けれど、わかっているがらつつい先送りにしてしまい残念な思いをすることもあり、去年は蓮と百合を描きそびれてしまいました。しかし、このように思うのも日本のはっきりした四季があればこそです。

今年も桜の季節がやって来ますが、毎年、桜前線の北上はニュースで報じられます。あたりまえの事だと思っていたのですが、特定の植物の開花状況が毎日のニュースになる様な国は日本だけだと聞いたことがあります。やはり、古来から自然と密接に関わってきた民族なのだと思うと同時に、現代においても花が咲くのを待つ人の心は変わらないのだとしみじみ思います。



今後も身近な植物を通して四季の変化を感じながら品良くおらかな作品づくりを目指し精進します。

「出会いに感謝」

第20期生 上端 伸也さん

私は九谷焼技術研修所を卒業後、能美市内の窯元で制作スタッフとして11年間お世話になりました。日々商品の制作に取り組みながら、半年に一度開催される見本市等では、毎回、新作を発表しなければならず、帰宅後もその新作のことで頭がいっぱいでした。しかし、お客様に新作を気に入っていただいた時にはとても嬉しく、この仕事にやりがいを感じました。



また展示会のアテンド業務を通じて、お客様や関係者の方々から数多くのことを学ぶことができました。スタッフとしての仕事で貴重な経験は、今後の私の制作活動に大いに役立つものであり、心から感謝しています。

私は仕事と別に公募展への出品を続けており、2010年にフランスへ旅行した際に歴史的建造物の造形や街並み、美術品の装飾など、目に映るもの全てに感動し、その時に感じたことを作品で表現したいと思い、制作を続けています。公募展に出品することで、様々な分野の先生方やお客様からのお言葉をいただき、技術向上に繋がるものと考えています。

こうして今の私があるのも、これまでお世話になった皆様方のご指導ご鞭撻や家族の支えがあればこそと深く感謝しています。

今後も、「出会い」を大切にし、感謝の気持ちを忘れずに制作活動に励んでいきたいと思っています。

トピックス・いしかわ動物園とコラボレーション

当研修所では、新たな取組みとして平成27年度から、いしかわ動物園とコラボレーションし「干支と九谷焼」をテーマに企画展を開催しています。

これまで2回開催してきました、今年度は12/14～12/28まで、当研修所を卒業した若手作家が制作した干支飾皿10点を展示し、1/2～1/30は本科2年生11名が課題制作した「とり」の置物展を開催しました。動物園でのスケッチからはじまり、制作した作品を多くの方々に観ていただきました。

いしかわ動物園では、昨年11月19日に「トキ里山館」がオープンし、県内外から多くの方が来園されています。また、12月23日には、世界三大珍獣のコビトカバの赤ちゃんが生まれ、にぎわっています。今後、ますます交流を深めていきたいと思っています。



九谷焼をいっしょに盛り上げる能美市と研修所！！

【開館35周年をむかえて】

能美市九谷焼資料館
館長 中矢 進一さん



能美市九谷焼資料館は昭和57年に開館しました。今年で35周年を迎えます。昭和57年当時は、全国的に「ハコモノ」としての美術館建設ブームの真っただ中。何故あえて美術館にせず、資料館としたのか。それは九谷焼を芸術面だけでなく、伝統産業の面でも重視したからだと思います。九谷焼の鑑賞の場のみならず、制作工程などの学習の場としての性格を持ち合わせるのが資料館です。産業九谷に立脚する能美市にマッチする九谷焼ミュージアムです。全国的な美術館建設一辺倒の風潮に迎合せず能美九谷の立場を貫いて、資料館とした先人の英断に感服します。

しかし、2020年東京五輪・パラリンピックを迎えるにあたって、時代の要請に十分に答えられないのが現状です。県外・国外から多様性をお持ちの来館者に対し「おもてなし」する公共施設としてユニバーサルデザインを取り込んだバリアフリー化とインバウンド対策を施設改修で実現しなければならないと思います。

秋の特別企画展は、干支の酉にちなみ、花鳥画の世界を描いた九谷焼の名品を、明治期の貿易九谷であるいわゆる「ジャパン・クタニ」のコレクションで有名な栃木県にある「鶏声磯ヶ谷美術館」から借り受け、展示したいと思っています。施設改修前の最後の特別企画展示となるでしょう。その九谷焼に描かれたそれぞれの「鳥」についての解説を、いしかわ動物園の協力を得て掲示できればと考えております。多くの方々のご来館を願っております。

～能美市とのアンケート調査結果より～

研修所では、昨年8月に能美市と協同で卒業生を対象とした、アンケート調査を実施しました。このアンケートは九谷焼後継者の課題を解決するための施策に反映するために実施したものです。今回、皆様方からご回答いただいた結果の一部をご紹介します。ご協力ありがとうございました。

Q：能美市や九谷焼業界に対し何かご意見・ご要望等あれば教えてください

- 20代女性 ・茶碗まつりのときに卒業生でも気軽に販売できるブースを設置
- 30代女性 ・補助制度の周知がされていない
・常に情報発信して欲しい
・求人情報の公開
- 30代女性 ・福祉・介護に手厚い施策
・九谷焼にも優遇施策を
- 30代女性 ・粘土屋・絵具屋さんがなくならないように
- 30代女性 ・能美市は住みやすく素晴らしい
・卒業生が定住するには空き家が足りない
・空き家の持ち主と作家・職人の結びつきが必要
- 30代女性 ・イベントをやりすぎて飽きられそう
・回数を減らしては？
- 30代女性 ・乳児の遊び場がない
・保育園から可哀想とか融通が利くでしょと言われる
・お仕事ガンバレと背中を押す行政に期待しています
- 30代女性 ・聞いていた上代価格とは違う値段で販売され商品が信用できない。裏表のない価格設定をし若手作家に安心してもらえる環境を腕の良い若手作家を九谷焼の代表として発表して欲しい
- 30代女性 ・月10万くらいの給料はブラック企業
・作家だけでなく職人への補助制度
・作家志望の人に具体的な経営法を作家志望・職人志望にわかれて授業
- 30代女性 ・若手の作り手と売り手のつながりが薄い
・名前が知れていないとつながらない
- 40代女性 ・公共の記念品等を考え公正に公募し仕事を振ってほしい
・輪島塗職人長屋みたいなものを九谷焼にもつくってほしい
- 40代女性 ・空き家と作家のマッチング制度はありますがたく機会があれば利用したい
・廃業された方の設備が廃棄されていると聞きます。そういう情報共有の場があると良いのではないのでしょうか
- 50代女性 ・展示会開催場所の提供
- 50代男性 ・卒業後に独立した作家を集め講座を開催して欲しい
・企業の給料が安すぎる
・業界全体の底上げが必要

ホームページ リニューアルオープン!!

4月1日に研修所のホームページが、リニューアルし、研修生の作品集や、卒業生インタビューなど随時更新しますので是非ご覧ください。

◆アドレス <http://www.pref.ishikawa.jp/kutanike/>

ホームページ内の「展覧会情報」では、皆様の個展等の開催情報を掲載しています。開催DMなどを届けていただきましたら、ホームページでご紹介いたします。

【お願い】 ホームページやブログを開設している方へ

研修所のホームページへのリンクを貼って、研修所の知名度UPにご協力をお願いします。ホームページ内に掲載している研修所バナーもご利用ください。

また、支援工房九谷のホームページでは、窯などの予約状況も確認することができます。

◆アドレス <http://www.sienkobo-kutani.jp/>

是非ご利用下さい。

【産地の主な組合を紹介します】

産地には下表の主な組合以外にも、九谷焼技術保存会、九谷焼伝統工芸士会などの組合・団体が活動しています。

協 同 組 合 名 称	理事長
石川県九谷陶磁器商工業(協) 連合会	吉田 正一
石川県陶磁器商工業(協)	嶋崎 信之
石川県九谷窯元工業(協)	宮吉 勝茂
九谷上絵(協)	山田 晃
小松九谷工業(協)	吉田 幸央
金沢九谷振興(協)	鍋木 基由
加賀市九谷陶磁器(協)	山本 篤

「Gallery 彩」での企画展示会を募集中

日 時：九谷茶碗まつり及び陶芸村まつり期間中を含む前後2～3週間

場 所：Gallery 彩

費 用：820円×日数、DM費用など

応募方法：希望される方は、工房受付又は研修所までお問い合わせください。

【編集後記】

関係の皆様のご協力のもと第8号を発行することができました。ここに紙面を借りまして、ご執筆いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

山梨県で開催

加賀百万石・武家文化が生んだ工芸美術の華 「九谷焼展」開催

平成27年3月、北陸新幹線金沢開業により全国的に注目をあびていることから、今回の展示会の話がありました。

日時は、昨年9月30日（金）～11月13日（日）の45日間、場所は山梨県にある「身延町なかとみ現代工芸美術館」で『加賀百万石・武家文化が生んだ工芸美術の華』をテーマに開催されました。当研修所が所蔵する講師の作品18点・卒業制作パーマネントコレクション作品20点・研修生課題作品35点を展示しました。今日まで培われてきた伝統技法を踏まえながらも柔軟な現代的発想を下地に、伝統工芸として、また産業としてさまざまな側面を持つ九谷焼の新しい歴史を創造・継承していく、“これからの九谷焼”の展示となりました。

山梨県内はもとより、関東甲信越地域一円から多くの方々に鑑賞していただき、好評のうちに修了することができ、関係各位のご協力の賜と深く感謝申し上げます。



「研修所通信NO.8」

発行：平成29年2月

編集：石川県立九谷焼技術研修所

能美市泉台町南2番地

TEL 0761-57-3340

FAX 0761-57-3342

<http://www.pref.ishikawa.jp/kutanike/>

印刷：鶴川印刷株式会社

